

BCM普及・評価の意義

2010. 2. 19

あらた基礎研究所 専門研究員
慶應義塾大学 教授
大林厚臣

企業におけるBCMの意義

1. 逸失利益を防ぐなど、直接に自社の利益を守る。
2. 供給責任を果たすなど、取引先の利益を守る。
3. 社会的利益：自社や取引先以外の利益や
地域秩序などを守る。
4. 投資家の利益を守る。

企業におけるBCMの意義

1. 逸失利益を防ぐなど、直接に自社の利益を守る。
2. 供給責任を果たすなど、取引先の利益を守る。
3. 社会的利益: 自社や取引先以外の利益や
地域秩序などを守る。
4. 投資家の利益を守る。

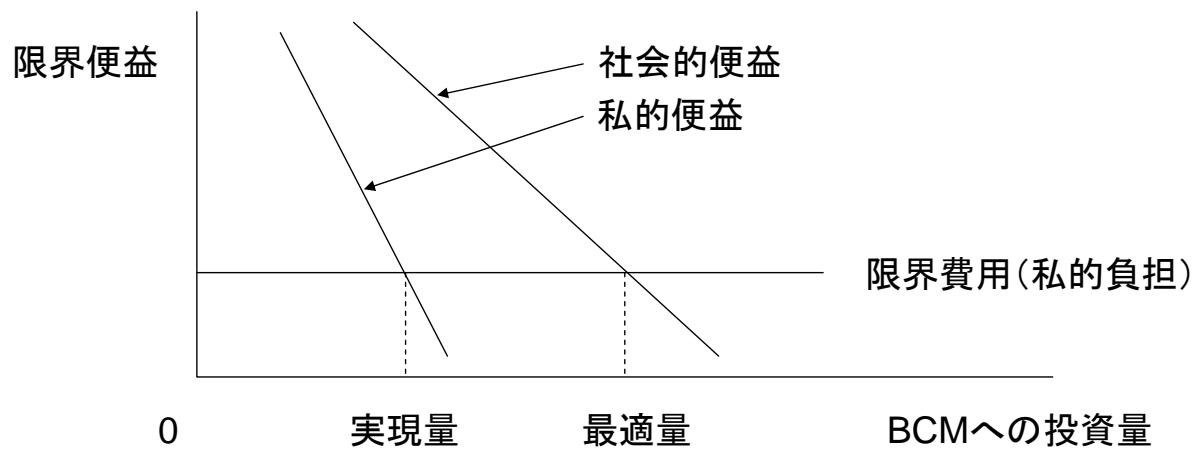
外部経済性

BCMの外部経済性が大きい事業

1. 重要インフラストラクチャー
(例) 電力、ガス、水道、公共交通、通信
2. 国民の安全保障に関する事業
(例) 医療、警察、消防、防衛
3. 経済活動のプラットフォーム
(例) 取引市場、金融市場、決済機能
4. 大規模なサプライチェーンの事業継続を左右する事業
(例) サプライチェーンに組み込まれた事業、市場シェアの大きな事業

外部経済性による問題点

BCMへの過少投資



BCMへの過少投資 (対策)

- ・法令 (例) インフラ、安全保障、市場・決済機能
- ・市場からのインセンティブ (例) 取引先の選別、SLA
- ・情報開示 (例) 報告書
- ・基準認証 (例) 取引先の選別
- ・社会からの評価 (例) 取引先の選別

政策ミックス

- ・法令

(+) 強制力 (−) 機動的に改変できない。

- ・市場からのインセンティブ

(+) 情報を多くもつ者が自発的に対策をとる。

(−) 当事者にとって最適でも、社会的に最適とは限らない。

- ・情報開示

(+) 他者に参考になる。 (−) 守秘やセキュリティの問題。

- ・基準認証

(+) 法律より機動的に運用・改変できる。 第三者認証によって
守秘やセキュリティの問題を解決できる可能性。

(−) 強制力に欠ける。

- ・社会からの評価

(+) 規定に制限されない柔軟性。 (−) 正確な根拠を欠く可能性。

BCMと環境問題の比較

外部経済性があり、過少投資になることが共通の問題。

対策は基本的に似たものが有効。

(参考)

地球環境問題における政策ミックスは、

- ・ 法令 + 市場インセンティブ + 情報開示
(例) 強制規定 + 課税・権利取引
- ・ 基準認証
(例) 業界自主規定
- ・ 企業の社会的貢献の評価
(例) グリーン購買、企業イメージ

BCMと環境問題の比較

地球環境問題

関係者が多い → 当事者交渉は困難。
影響が普遍的 → ユニバーサルな規制や
排出権などの市場を導入できる。

地域環境問題

関係者が少ない場合 → 当事者交渉が可能。
影響が個別的 → ユニバーサルな規制や
排出権などの市場導入は困難。

BCM

関係者が少ない場合 → 当事者交渉が可能。
影響が個別的 → ユニバーサルな規制や、市場による
権利取引や価格形成は困難。

BCM促進の政策ミックス(案)

- ・ 法令
 - (例) 必要な業種および事項
- ・ 市場からのインセンティブ
 - (例) サプライチェーンや有力企業との取引条件
- ・ 基準認証 + 情報開示 + 社会からの評価
 - (例) 企業・業種ごとの基準認証、守秘部分は第三者認証
専門家・評価者の育成
企業の情報開示自体を評価する風土

対策からリスクの分類

<u>リスク</u>	<u>被害の主因</u>	<u>地理範囲</u>	<u>経験</u>	<u>有事移行</u>	<u>風評</u>
地震	物	狭	既	明白	小
火災	物	狭	既	明白	小
破壊事故	物	狭	既・未	明白	小・大
水害	物	狭	既	要判断	小
既存感染症	行動	広	既	要判断	小・大
鳥インフル	行動	広	未	要判断	大
ネット障害	行動	狭・広	既・未	要判断	小・大
コンプライアンス	行動	狭・広	既	要判断	小・大
受給中断	社外	狭・広	既	要判断	小
事業中断	各種	狭・広	既	要判断	小・大